

# 一 栄谷 異見私見



を善く潜在し、発現の機会を虎視眈々と狙ってうごめいていることを認識せざるを得ない。

## 新型コロナウイルス

世界の新型コロナウイルス感染者数は93万人に及ぶ(4月3日午後4時現在)。当初は中国の武漢市の問題と観していたものが、湖北省、北京に広がり、そして韓国、日本、さらにはイタリアをはじめとして欧米、南半球へと拡散は急である。

日本でも感染が始まった当初は感染者数に対して死者数が少なくアメリカで猛威を振るっているインフルエンザよりもましかと発観していたが、イタリアでの死者数が中国を上回り、しかも致死率が10%前後と高いことが報道されるようになってから、これはただ事ではなく、命が危険にさらされていることを実感。直近ではあつという間にアメリカが最大の感染国となるなど、その感染力の強さに戦々恐々としているのが実情だ。

ヨーロッパ中世の「ペスト」(現在ではペストではなく、ウイルス出血熱とされている)や16世紀のアジア文明を崩壊させたマインが持ち込んだ天然痘、20世紀初頭のスペイン風邪等の悲惨な歴史が決して過去だけの話ではなく、病原菌感染症は今も能力

感染は、外出の自粛、学校休校、工場閉鎖等々、生活は勿論のこと経済活動にも甚大な影響をもたらしつつある。戦争とは違って生産活動は休止するだけでは何も破壊されるわけではないが、経済活動

## 新型コロナが垣間見せる新しい風景

の停滞にともない需要が大幅に落ち込む一方で、マスクや消毒液、トイレットペーパー等の生活必需品や、保存性の高い一部の食料品は店頭から消え去ってしまった。また日本では発症のピークには至っておらず、落ち書きを取り戻して経済活動を再開するまでの時間は見通せず、さらなるダメージを被るのは必至である。

しかしながら災いを転じて福となす、は言い過ぎになるが、マイナス成長を奈無く

されることにより、経済活動の停滞が二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス発生抑制をもたらすなど、時代を大きく変える一面を

もたらしつつあることも確かだ。経済成長と環境問題の両立を前提にして二酸化炭素の排出削減をめぐる議論は紛糾し、国際的合意は先延ばしされてきた。新型コロナウイルスがこうした動きに強制的に急ブレーキをかけた格好だ。またテレワークやテレ会議等を駆使しての在宅勤務や動画を使つての授業等も広まりつつあり、

運動や会議、組織的活動等の仕事のあり方や教室に集まることを前提としてきた学習方法など、本質的なレベルでの働き方改革や教育改革がすすみつつある。

きやかな動きではあるが、こうした中の一つが田園回帰だ。一般的な学校休止にともない田舎のじいちゃんばあちゃんに一時移住する子どもたちも多しという。

まきに疎開である。また多少なりとも自給していくことが必要として田舎に土地を求め都会人も少なくないとも聞く。確かにアメリカでの感染がニューヨークに集中しているだけでなく、わが国でも東京、大阪等の大都市での感染が多く、岩手、鳥取、島根では発生していない。農林部があらためて注目される時代がくるのかもしれない。(4月3日現在)

(農的社會学サイエンス研究所代表)